見せます・出します「ヒヤリハット事例」
～安全衛生活動への参加の見える化～

１．はじめに

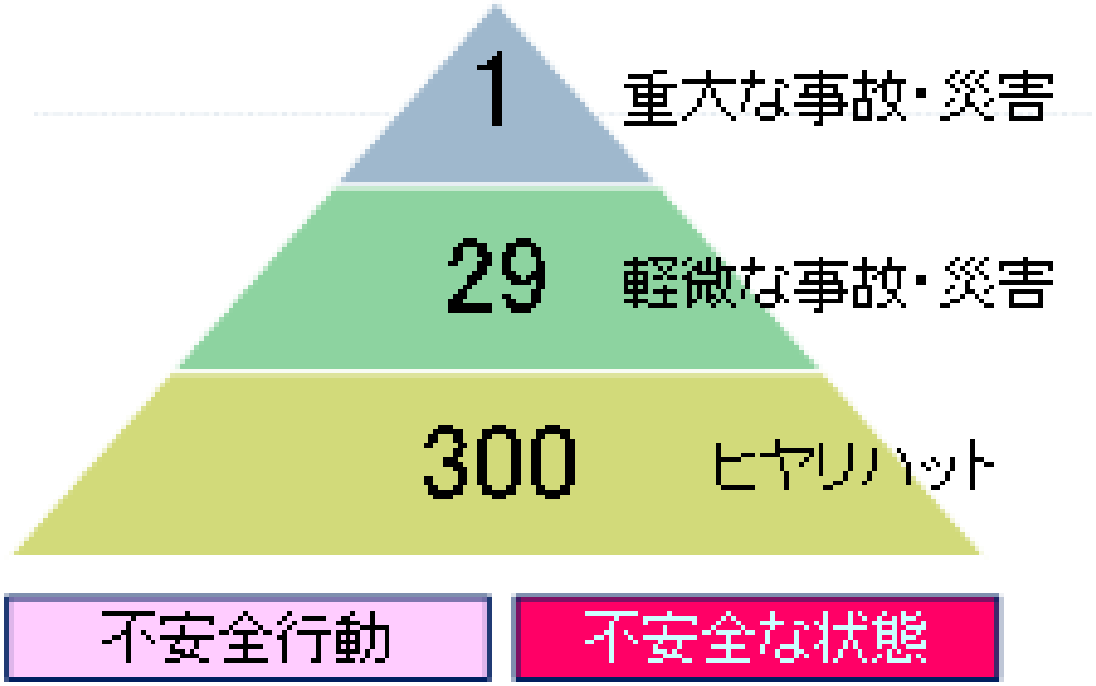
建設現場は、工事の進捗と共に日々形状が変化し、気象などの自然の影響も常に受けている。また、多くの職種の人や建設機械が混在し、各々が独自に作業することから常に危険を伴っている。そのため、事故・災害を起こさないよう、他の事業場に比べて安全衛生管理を徹底して行わなければならない。昔から、1件の重大な事故・災害に対して、300件のヒヤリハットが存在するといわれている。私達は、このヒヤリハット事例を活用し、職員及び現場の作業員が安全衛生活動に積極的に参加することを目的に【見せます・出します「ヒヤリハット事例」】という「見える化活動」に取り組んでいる。ここでは、その取組み事例を紹介する。

２．ヒヤリハットと安全管理

事故と災害との関連を具体的に示したものとして、ハインリッヒの「1：29：300の法則」がある。この300件のヒヤリハットの背後には、多くの不安全な行動や不安全な状態があることも確認されている。

このことから、災害をなくすには、重大な事故・災害や軽微な事故・災害だけでなく、ヒヤリハットやさらにその背景にある不安全な行動、不安全な状態を取り除かなければならない。災害を起こさないためにも、ヒヤリハットの段階で建設現場に働くすべての人々に「何が危険なのか？どうすれば危険を除去し、災害を未然に防ぐことができるのか？」を理解してもらわなければならない。

ハインリッヒの法則



３．ヒヤリハット事例の報告

安全管理の第一歩は、危険に対する感受性、すなわち危険なものを危険であると認識する感覚を高めることである。我々は、危険に対する感受性を高めるため現場で起きた、又は起きそうになった危険な状態、すなわちヒヤリハット事例を収集することにした。早速、現場にヒヤリハット報告書の提出を求めた。

しかし、現場ではヒヤリハットが起こっても、日頃報告書などを書き慣れていないため、文書にすることは容易ではない。そこで、我々は簡略化した帳票を作り協力会社に協力を要請した。

また、職員、協力会社との積極的なコミュニケーションを行い社内会議、安全研修会、安全協議会、安全衛生パトロール等、いろいろな場所でヒヤリハットの話を出した。いわゆる「ヒヤリハットの見える化」である。

ヒヤリハット報告書（はじめの帳票）

ヒヤリ・ハット報告書

報告日　　年　　月　　日

性別	男・女	職種		就業形態	次
年齢	歳	経験年数	年	入場日数	日
いつ					
どこで					
どんなことがありましたか					
ヒヤリ・ハットで済んだ理由は何だと思いますか					

このヒヤリ・ハットの原因は何だと思いますか

次の原因（選択肢）の中から1つ選んで番号に○をつけてください。
該当するものがないときは「その他」のところに記入してください。

種別	原因（選択肢）	原因の説明
不注意（エラー）	1 無知　3 不慣れ 2 未熟練	知らなかったり、生半可にしか知らなかったこと等によるエラー
	4 意識レベルの低下	繰り返し型の単調作業や、「うっかりしていた」、「ぼんやりしていた」など、意識の低下に基づくエラー
	5 錯覚	見間違いや聞き違い（外的要因）と、思い込みなどの間違い（内的要因）によるエラー
	6 場面行動	一点に注意が集中し、周囲の状況が見えなくなることによる動作・行動のエラー
	7 パニック	非常な驚きや慌てたときに人がとる動作、行動（驚愕反応）のエラー
	8 イライラ 9 心配事	心配事や不満があり、イライラしているときなど、「心ここにあらず」の状態になって起こすエラー
	10 病気 11 疲労	病気のときや疲労が残った状態で作業し、注意力が散漫になって起こすエラー
	12 中高年の機能低下	一般に中高年とは45歳以上の人を指すが、40歳頃から自覚しないまま忍び寄る機能低下から生じるエラー
不安全行動	13 危険軽視 14 慣れ	危険を軽視して「だろう」、「よかろう」で行動したり、同じ作業を繰り返しているうちに慣れてきてとる不安全行動
	15 近道行動 16 省略	動作・行動の簡素化（少しでも楽をしよう、仕事の出来高を上げようとしてとる行動）による不安全行動
	17 悪習慣 18 集団心理	その集団特有の悪習慣、集団心理による不安全行動
	19 その他	（　　）

そのときの環境、管理、作業条件はどうでしたか

該当するものがあれば、その番号に○をつけてください。

環境	1 通路、階段、足場等の設備が使いづらい、悪い　2 4S（整理・整頓・清潔・清掃）が悪い 3 機械が見づらい・わかりづらい 4 その他　（　　）
管理	5 安全管理がたるんでいる　6 安全衛生組織が悪い　7 ルールはあるが守られていない 8 その他　（　　）
作業条件	9 作業手順が実情に合っていない　10 仕事が切迫している　11 機械や設備が使いづらい 12 作業が単調、繰り返し 13 その他　（　　）

どうしたら防ぐことができると思いますか

元請記入欄	番号		型別原因

※ その時の状況図を裏面に記載してください。

2008.05.21

ヒヤリ・ハットした時の状況図

ヒヤリハット報告書（簡易版）

ヒヤリハット報告書

報告者　所属：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

氏名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

性　　別	男・女	職　　種		請負形態	次
年　　齢	歳	経験年数	年	入場日数	日
いつ					
どこで					
どんなことがありましたか。出来れば図もお願いします。図は裏面でも構いません。					

このヒヤリハットは、次の原因のどれに該当すると思いますか。該当欄に○をしてください。
該当するものがないときは「その他」のところに記入してください。

	原因	原因の説明	該当欄
このヒヤリ・ハットの原因	無知・不慣れ・未熟練	知らなかったり、生半可にしか知らなかったこと等によるエラー	
	意識レベルの低下	繰り返し型の単調作業や、「うっかりしていた」、「ぼんやりしていた」など、意識の低下に基づくエラー	
	錯　覚	見間違いや聞き違い（外的要因）と、思い込みなどの間違い（内的要因）によるエラー	
	場面行動	一点に注意が集中し、周囲の状況が見えなくなることによる動作・行動のエラー	
	パニック	非常な驚きや慌てたときに人がとる動作、行動（驚愕反応）のエラー	
	イライラ・心配事	心配事や不満があり、イライラしているときなど、「心ここにあらず」の状態になって起こすエラー	
	病気・疲労	病気のときや疲労が残った状態で作業し、注意力が散漫になって起こすエラー	
	中高年の機能低下	一般に中高年とは45歳以上の人を指すが、40歳頃から自覚しないまま忍び寄る機能低下から生じるエラー	
	危険軽視・慣れ	危険を軽視して「だろう」、「よかろう」で行動したり、同じ作業を繰り返しているうちに慣れてきてとる不安全行動	
	近道行動・省略行為	動作・行動の簡素化（少しでも楽をしよう、仕事の出来高を上げようとしてとる行動）による不安全行動	
	悪習慣・集団心理	その集団特有の悪習慣、集団心理による不安全行動	
	その他		

（わかる範囲で記載してください）

2012. 04. 02

　そのうち、ぼちぼちと報告が上がるようになり、その情報を協議会や日々の朝礼時に発表する現場も出てきた。現在、毎月行う教育訓練に「ヒヤリハット検討会」を設け、現場で起きたヒヤリハットについて、全員で検討し、その対策を全員で考えるよう指導している。

　その結果、平成24年3月末までに3件しか報告のなかったヒヤリハットの報告も、平成24年4月から平成24年10月末の間で、33件になった。

写真−1　朝礼時の発表

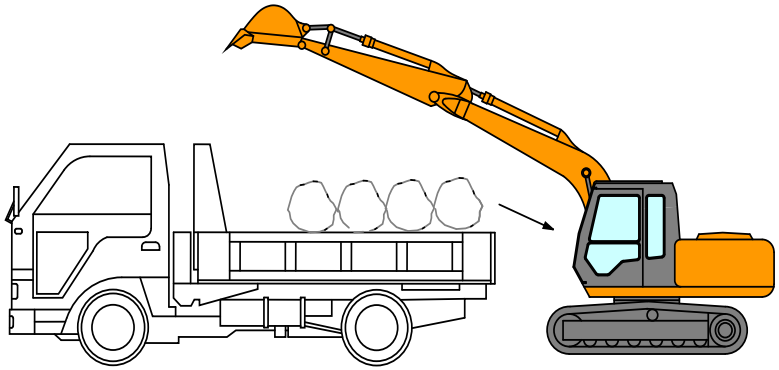
写真−2　ヒヤリハットの検討会

４．ヒヤリハット事例の紹介

（１）現場から出てきた最近の事例

◆ 当社のヒヤリハット（報告書）３０番

転石をダンプトラックに積込中、荷崩れを起こし、積み荷の転石が運転席側に落ちそうになった。



- 写真-3
- 改善方法として、積み込み位置を高くした。

- 当社のヒヤリハット（報告書）33番

移動式クレ−ンで荷卸し作業中、アウトリガーが地面に数センチめり込んだ。

- 改善方法として、地盤を良く確認する。判断は、元請職員が行う。

写真-4　アウトリガー部の沈下

(2)その他、報告のあった事例

- ヒヤリハット報告書　３３件
- 聞き取りによる報告（口頭）　１５件

当社のヒヤリハット（報告書）

	内　容
1	鉄骨の梁の上でレベル測定中、足が滑って墜落しそうになった。
2	足場の階段を降りるとき、手すりがなかったため、あと1段のところで足を踏み外し、滑り落ちそうになった。
3	バックホウに乗り込もうとしたとき、作業着のポケットが操作レバーに引っ掛かり、落ちそうになった。
4	可搬式作業台を使用して腰壁のコンクリートを打設していたところ、前日の降雨で地盤が緩んでいたため、可搬式作業台が傾き、墜落しそうになった。

当社のヒヤリハット（報告書）

	内　容
５	盛土の施工でタイヤローラーに乗って転圧作業を行っていたところ、法肩が近づいてきたのでハンドルを切って回避しようとしたが、タイヤローラーが旋回し始めるのが思ったより遅かったため法肩から転落しそうになった。
６	信号機の電源ケーブルの交換作業で架線の撤去作業時、作業場所の足元に腕木等の材料を置いていたため、作業者がつまずいて転倒しそうになった。
７	雨天時に、歩いて現場巡回をしていたところ、足がぬかるみにはまり、転倒しそうになった。

当社のヒヤリハット（報告書）

	内　　容
８	開口部にコンパネによる蓋がしてあったが、すべり止めが外れたものを踏んだ際、転倒しそうになった。
９	資材置き場の草刈りをしていたところ、つまずいて転倒しそうになった。
１０	枠組み足場上を移動しているとき、鳥居枠の上桟で頭を打って転倒しそうになった。
１１	3尺の脚立から降りる時、腰袋が脚立に引っ掛かり、脚立と一緒に転倒した。

当社のヒヤリハット（報告書）

	内　容
１３	現場を歩いていたところ、段差に気付かず、つまずいて壁にぶつかりそうになった。
１３	現場内の上り坂をダンプトラックで走行していたところ、勾配の変化点付近で視界が悪く、対向車とぶつかりそうになった。
１４	クレーン付トラックでコルゲートパイプを吊り下していたところ、玉掛けした位置がクレーンのワイヤーが垂直となる位置ではなかったため、吊り上げた荷が迫ってきてあたりそうになった。
１５	クレーン付トラックから荷を下ろしていたところ、クレーンのワイヤーが切れて吊荷が足の近くに落ちた。

当社のヒヤリハット（報告書）

	内　容
16	足場の上段から、工事写真用の黒板を足場板のすき間から落としてしまい、下の作業員にあたりそうになった。
17	高所で工具を使用して作業をしていたところ、誤って工具を落としてしまった。
18	玉掛け後、地切りをしたところ、玉掛けの仕方が悪かったため、吊荷が落下した。
19	鋼矢板打設時、バイブロのチャックが開ききらないうちに巻上げたため、バイブロが少しはねた。

当社のヒヤリハット（報告書）

	内　容
２０	フォークリフトに乗っているとき、視界が悪かったため、人をはねそうになった。
２１	残土を４ｔダンプトラックに積込み中、運転手がダンプトラックの横のあおりを立てようと回り込んできたため、バックホウが旋回したときバケットにあたりそうになった。
２２	鋼矢板をバイブロにチャッキングするため、鋼矢板を持ってバイブロの方（上方）を見ながら移動していたところ、地面のくぼみに気付かず、足を取られて転倒し、鋼矢板があたりそうになった。

当社のヒヤリハット（報告書）

	内　容
23	坂道で、ブルドーザのエンジンの点検を早く済まそうと、キャタピラに乗り、オペレータにブレーキをロックして降りるよう指示したが、ロックの仕方が悪かったため、ブルドーザが動き出し、キャタピラと機体の間にはさまれそうになった。
24	地下1階で内装工事中、隣の部屋で引火性の塗料を使用して塗装作業をしていることを知らないで、火気を使用してシート張っていた。
25	工事車両出入口から退場しようとしたところ、右方向から来る車、歩行者、自転車ばかりに気を取られ、左方向から来る自転車と接触しそうになった。

当社のヒヤリハット（報告書）

	内　容
26	自動車専用道を走行中に、居眠りをしてしまい、トンネルの側壁に衝突しそうになった。
27	クレーン付トラックで移動中、クレーンのブームを下げていなかったため、架空線に接触し、ケーブルを切断しそうになった。
28	クレーン付トラックのクレーンのブームを起こしたまま走行したため、電線に接触し、切断しそうになった。
29	クレーン付トラックから荷下ろししていたところ、吊荷が近くの仮囲いに接触した。

当社のヒヤリハット（報告書）

	内　容
30	転石をダンプトラックに積込中、荷崩れを起こし運転席側に落ちそうになった。
31	足場を通行中、布板を結束していた番線につまずき転落しそうになった。
32	玉掛けワイヤーを持った状態で合図をし、ワイヤーに指を挟まれそうになった。
33	移動式クレ−ンで荷卸し作業中、アウトリガーが地面に数センチめり込んだ。

当社のヒヤリハット（口頭）

	内　容
１	泥水が跳ねて、ダンプ運転手の目に入った。
２	被覆シートが濡れていたので、滑った。
３	バックホウが捨石の上の真ん中にいたので、捨石の際を通った時に海に落ちそうになった。
４	現場までの道路が狭く、ボックスの通路で車がぶつかりそうになった。
５	捨石をグラブでつかむときに、石が欠けて飛び散った。
６	軽油の保管場所に、消火器が無かった。

当社のヒヤリハット（口頭）

	内　容
7	現場の一部を開放したら、一般車両が現場を通る時に迷っていた。
8	作業構台からフロートに渡る時、落ちそうになった。
9	パイプサポートの連結ピンの代わりに鉄筋を使用していた。
10	大口径ボーリングの穴の埋戻土の上を踏んだら、足が20センチ埋まった。
11	地面から出ている鉄筋に足が引っかかった。
12	隣地との境界フェンスを解体していたので、入るところを間違えた。

当社のヒヤリハット（口頭）

１３	段差を解消するために設置してある木製の台の上で滑った。
１４	作業員が、転落防止ネットの上に乗っており、ヒヤリとした。
１５	学校付近の道路が曲がりくねっているので、対向車とぶつかりそうになった。

(3)厚生労働省(職場のあんぜんサイト)の事例

- 転落・墜落　:１４件
- 転倒　:４件
- 激突　:４件
- 飛来・落下　:１１件
- 崩壊・倒壊　:４件
- 激突され　:１１件
- 挟まれ・巻き込まれ　:４件
- 切れこすれ　:１件
- 高温・低温の物との接触　:２件
- 感電・火災　:７件
- 有害物との接触　:７件
- その他　:２件

転落・墜落①

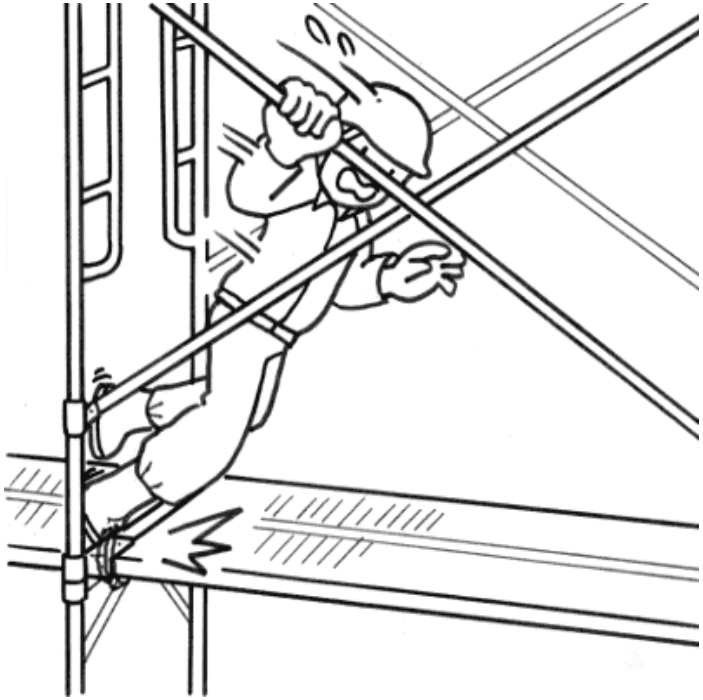
- ダンボール入り床材(1個15kg）25個をトラックに積み込んだあとシート掛け作業に入った。左側にシートを止め全面にシートを張り右側に荷とあおりの間を移動中足元がふらつき転倒しそうになった。

転落・墜落②

- 新築住宅のボード張り作業を手すりなし２連式脚立上でボード(0.80m×1.8m　約20kg）を持ち上げ壁張り中ふらついて足元がずれ足場から落ちそうになった。
- なお、作業者は連日の残業であった。

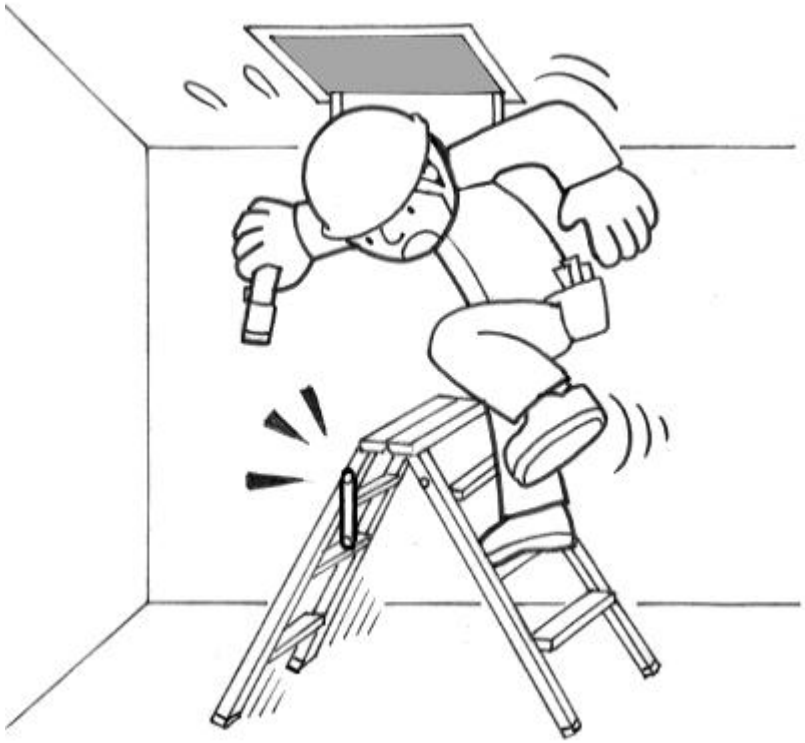
墜落・転落③

- 建設工事現場において、作業床の上で布板を結束してあった番線につまずいたが、とっさに枠組足場の筋交いにつかまって、転倒をまぬがれた



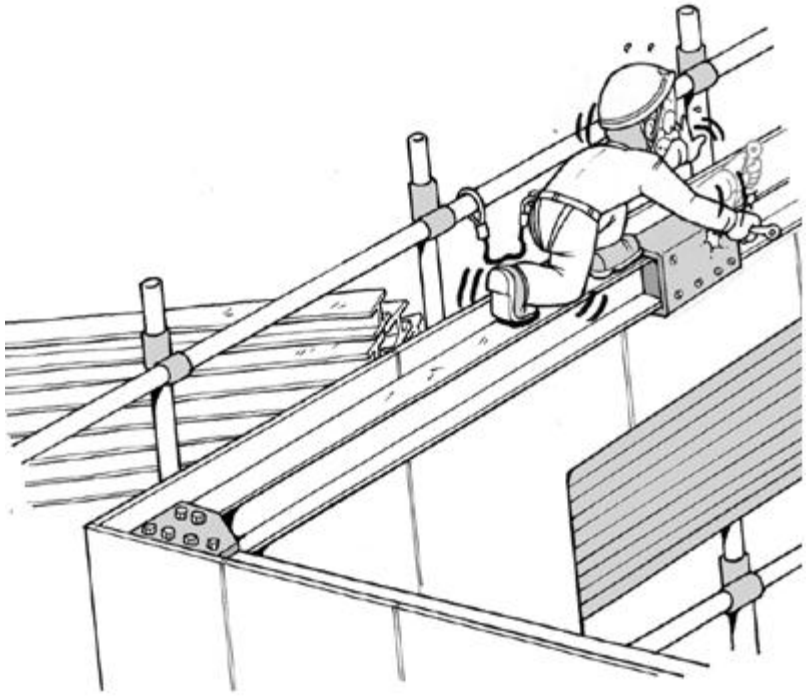
転落・墜落④

- 一般住宅の天井内配管の不具合点検のため、1.2mのアルミ製脚立をセットしちょっとの作業と思い開き止めをセットしないで点検中、体重の傾きにつれ脚立がぐらつき、開きそうになったのでハットした。



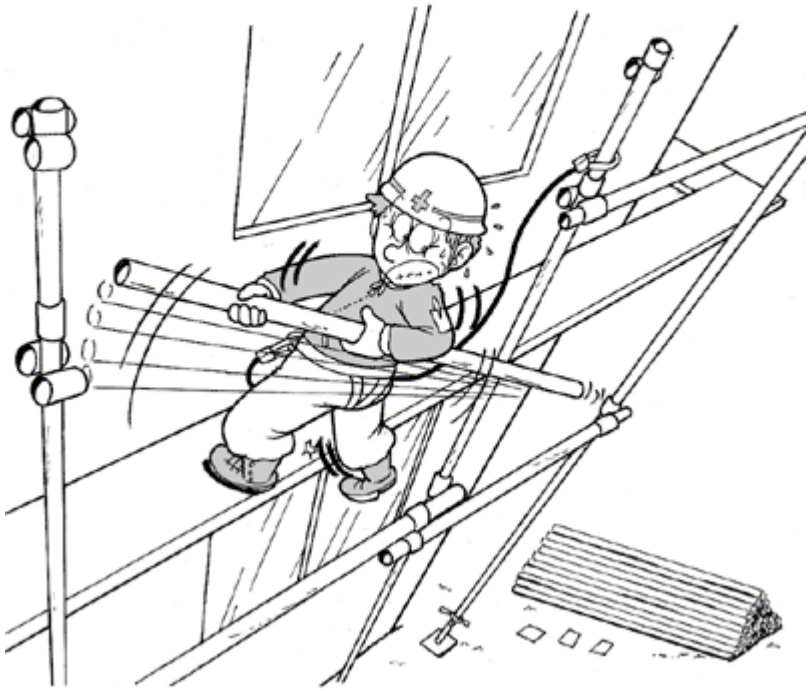
転落・墜落⑤

- 鉄骨造平屋倉庫の新築工事で、鉄骨の上棟のため高さ約4.7m、幅約12cmの梁の上でシノをテコにしてボルト穴の調整をしていたところ、シノが外れ反動でバランスを崩し地上に転落しそうになった。



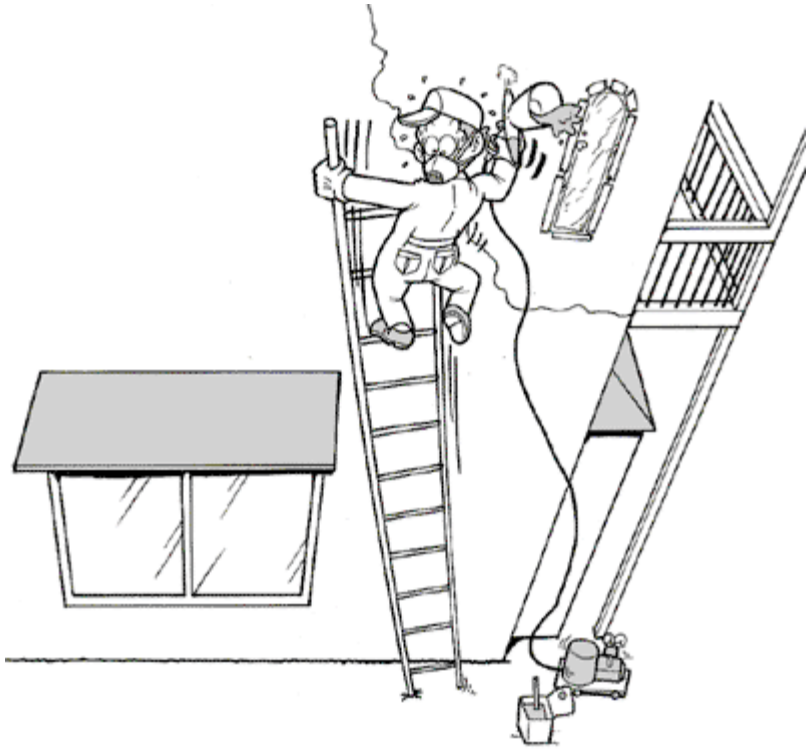
転落・墜落⑥

- 外壁改修工事の外部足場解体作業中、部材を引き抜いたときにバランスを崩して墜落しそうになりヒヤッとした。



転落・墜落⑦

- 　2階建住宅の外壁塗装工事現場において、建物の壁面にはしごを立てかけ上から3段目付近で塗装作業を始めようとしたときに、はしごを固定していなかったため、地面に墜落しそうになりヒヤッとした。



転落・墜落⑧

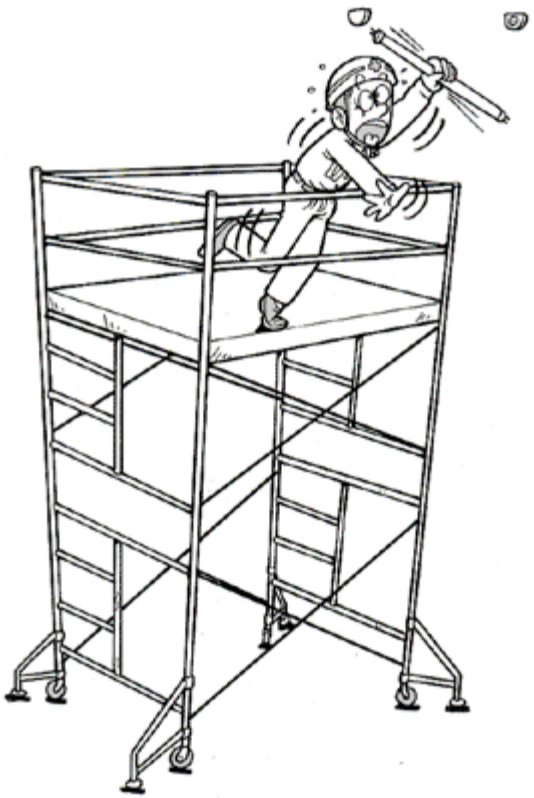
- 倉庫内で、フォークリフトに積んだパレットを高さ2m30cmまであげ、そのパレット上でワイヤーロープをアングルにかけているときに、バランスを崩し、地面に墜落しそうになった。

転落・墜落⑨

- 電柱の光ケーブルを通す管を付け替えるため、電柱の側にある木の添え木に登り、木の枝をつかんで作業を行っているときにつかんでいた木の枝が折れてバランスを崩し、転落しそうになった。

転落・墜落⑩

- 高さ約3.8mの移動式足場上で蛍光燈を取り付ける作業中、足場の設置位置がずれていたため、柵から身を乗り出し作業をしてバランスを崩し足を踏み外しそうになりハットした。



転落・墜落⑪

- 午後2時頃、家屋の解体現場で屋根の瓦を取り外し地面に投下する作業をおこなっていたところ誤って屋根の張り板を踏み抜き落下しそうになった。

転落・墜落⑫

- 午前9時50分頃、木造住宅の建方作業中、移動式クレーンで木材の梁を設置しようとした時、桁の上で作業中の作業者に吊荷が接触しそうになり、作業者はバランスを失い、危うく転落しそうになった。

転落・墜落⑬

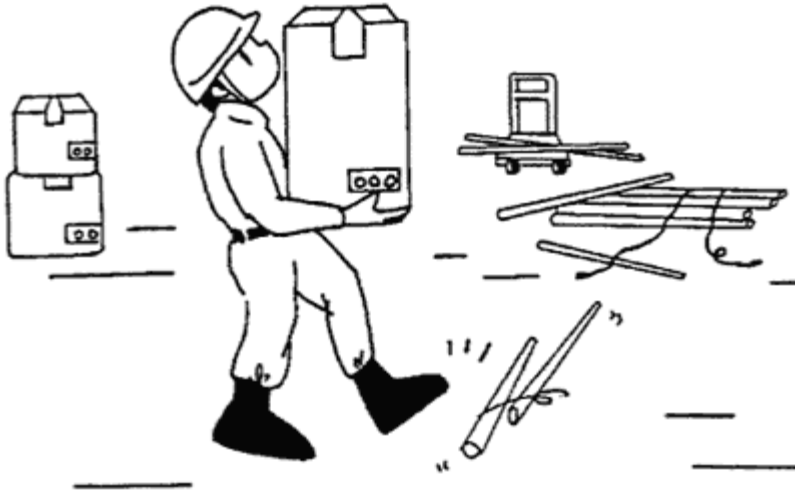
- 午後2時頃、車の荷台に砂利を積み終わり、平らにならしていたところ、身体のバランスを失って車の荷台から転落しそうになり、荷台から飛び降りた。

転落・墜落⑭

- 午前9時30分頃、店内で脚立に乗って棚から商品を降ろしているとき、バランスをくずして転落しそうになり、脚立から飛び降りた。

転倒①

- 建設工事において、内装材の入ったダンボール箱をかかえて運搬中、通路に放置されたパイプにつまずいてよろめいた。

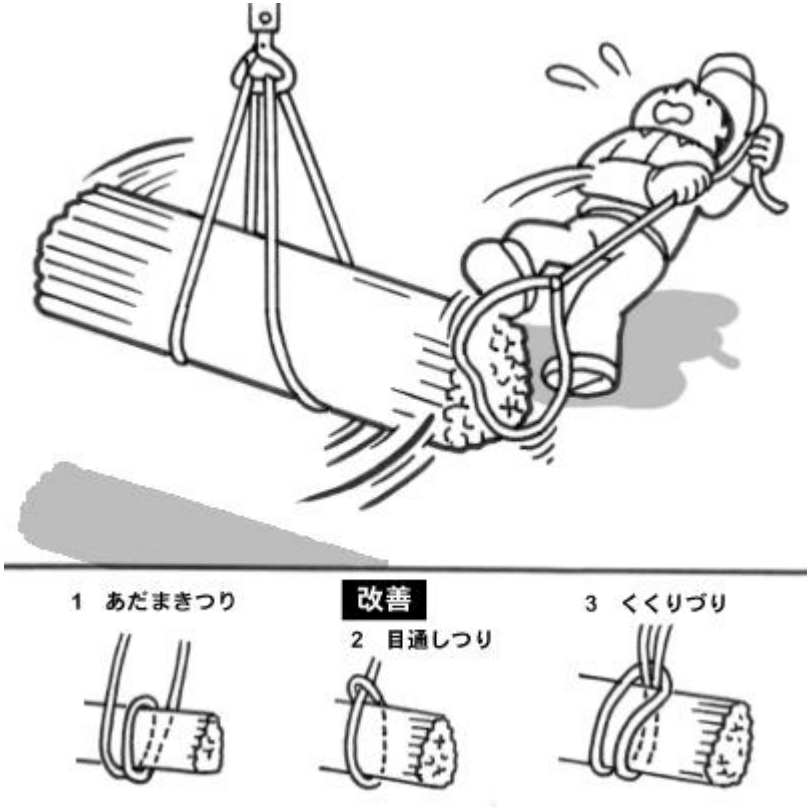


転倒②

- 道路舗装工事において、未施工部分に設置した合板製仮通路の端につまずいて、転倒しそうになった

転倒③

- 長尺の足場用鋼管を、数十本まとめてつり上げて搬送中に、荷が回転しそうになったので、介添えロープを引いたとき、ロープが抜け落ちて転倒しそうになった。



転倒④

- 午後2時頃、バックホーで残土整理中、重機から降りる時足を滑らして転倒し、そのまま斜面を滑り落ち、下に置いてあった廃棄用鋼材に激突しそうになった。

激突①

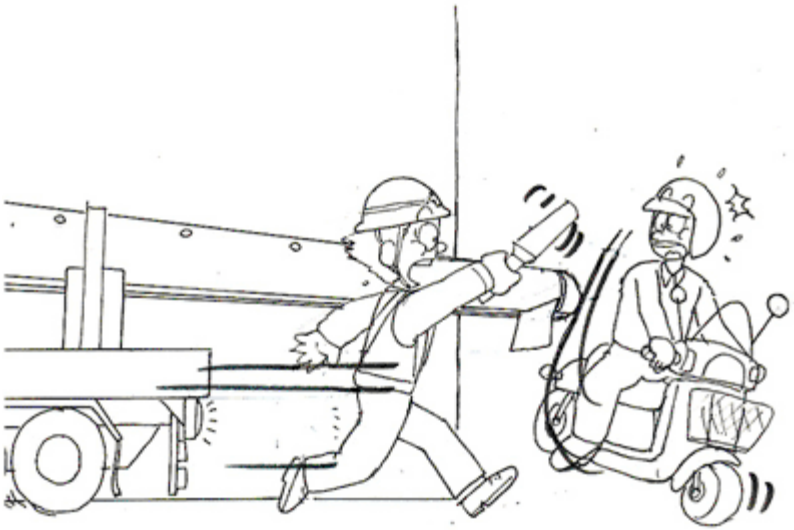
- 造成工事現場で、ダンプトラックで土を運んできて、土を降ろそうといったん車を止め、シフトをバックに入れてバックしかかったところ、バックミラーに人が見えたので、あわててブレーキを踏んで事なきをえた。

激突②

- 事務所玄関の透明ガラス製ドアが開いていると錯覚し、通過しようとしてガラスに衝突した。幸いガラスは割れず、大けがにはならなかったが、顔面に打撲を負った。ガラスドアの顔の高さ付近に縦縞の模様を貼り付けて気付き易くした。

激突③

- 　コンクリート製電柱を積載して後進してきたトラックの荷台から2.75mはみ出した部分に気がつかず、原動機付自転車で激突しそうになりヒヤッとした。

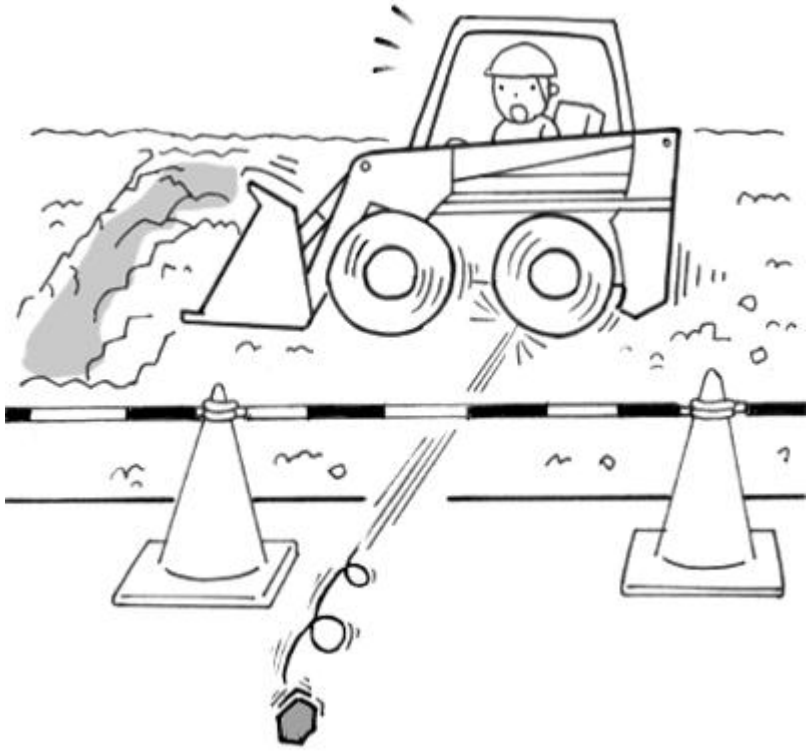


激突④

- 午後4時頃、解体工事に伴なう産業廃棄物処理作業の最中、立壁(2m×1.8m)を処理しようとしたところいきなり立壁が倒れてきて、危うく立壁に激突されそうになった。

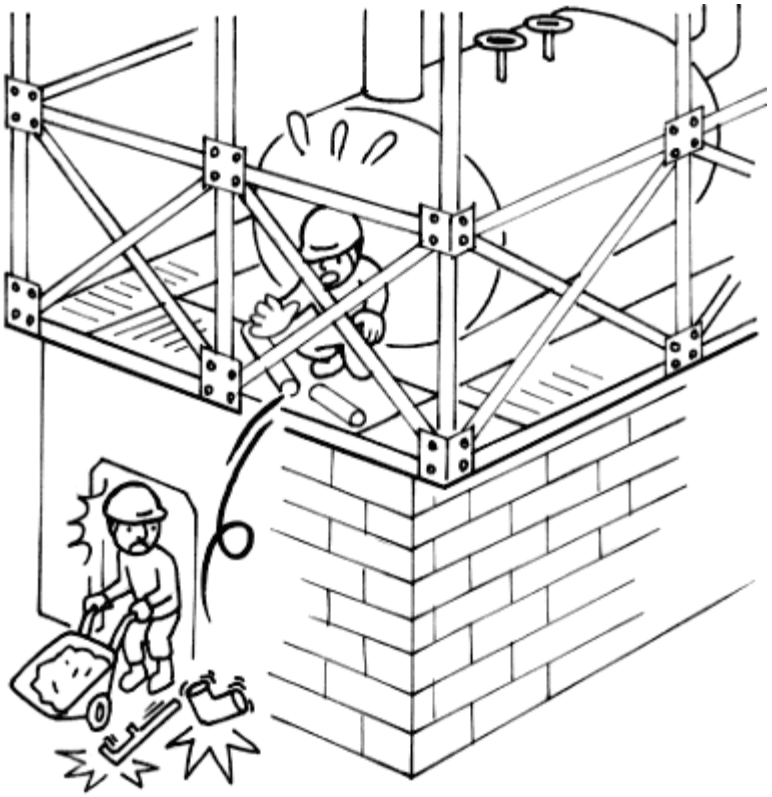
飛来・落下①

- 屋外消火栓配管埋め戻し工事において、ホイール・ローダーで堀削部の埋め戻し作業中に、路面上にあった握りこぶし大の石をタイヤのへりで踏みつけ、石が安全通路の方向に飛んだ。通行規制を行なっていて歩行者がいなかったので大事には至らなかった。



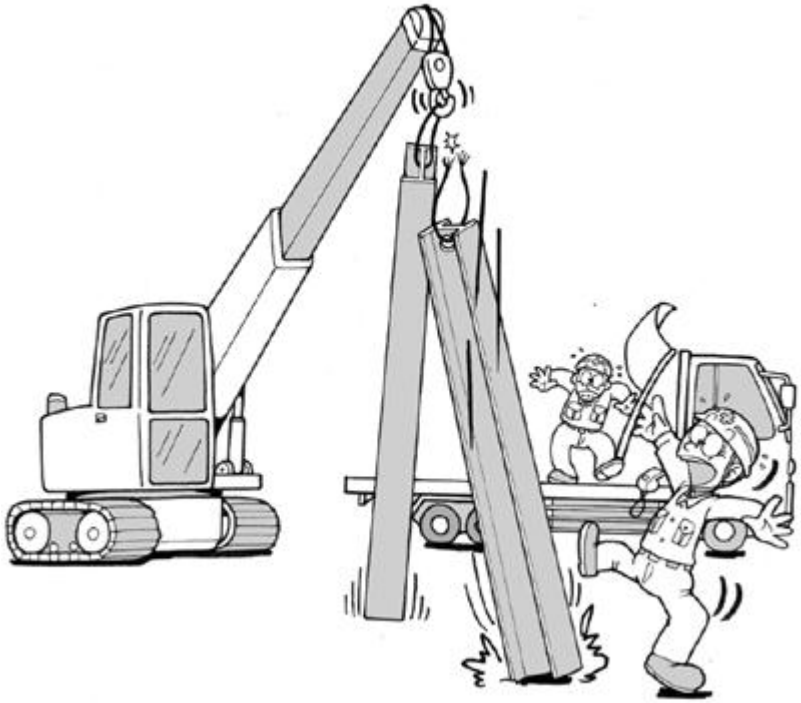
飛来・落下②

- 定期修繕のためボイラー炉底（1階部分）の灰出し作業を行っていたとき、ボイラー上部で作業していた作業者が、誤ってパイプレンチや接続用L型パイプ等を落とした。
- 落ちた場所が1階で灰出し作業を行っていた作業者のすぐ傍で、あやうく当たりそうになった。



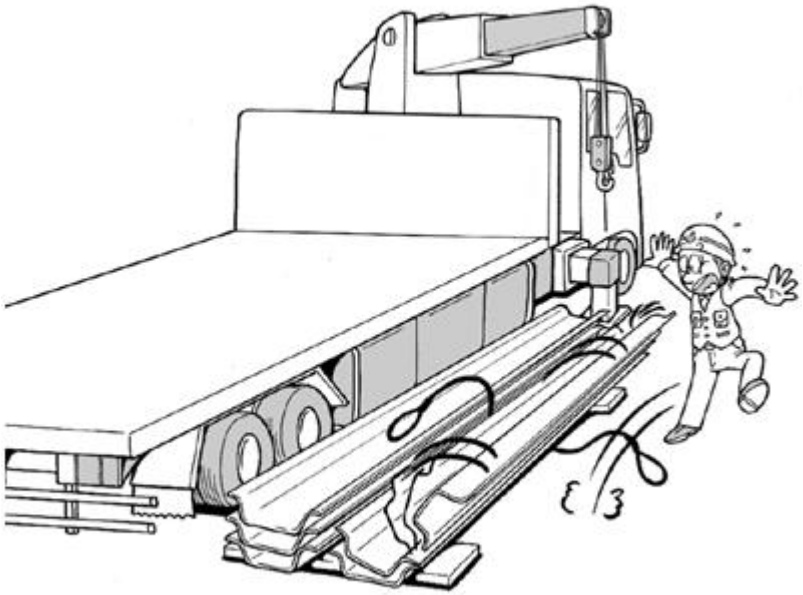
飛来・落下③

- 基礎工事の資材置場において、H鋼材2本をクレーンで吊り上げトラックの荷台に移す作業を行っていたところ、鋼材を吊っていたワイヤーが切れて落下した。



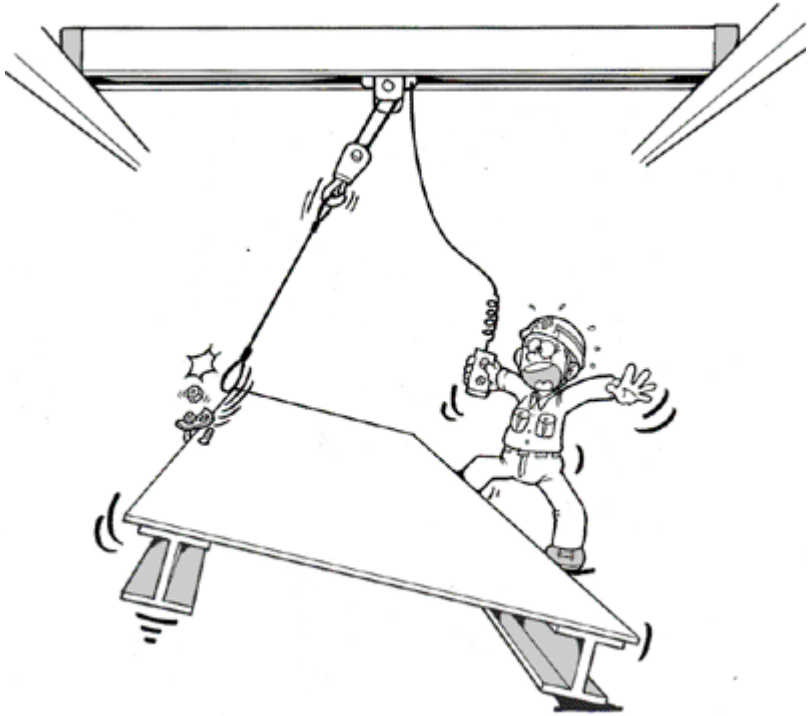
飛来・落下④

- 積載型移動式クレーンで鋼製の矢板3枚を荷降しして、玉掛用ワイヤーロープをフックから外して抜き取ろうとしていたところ、最上部の矢板が反転して崩れた。



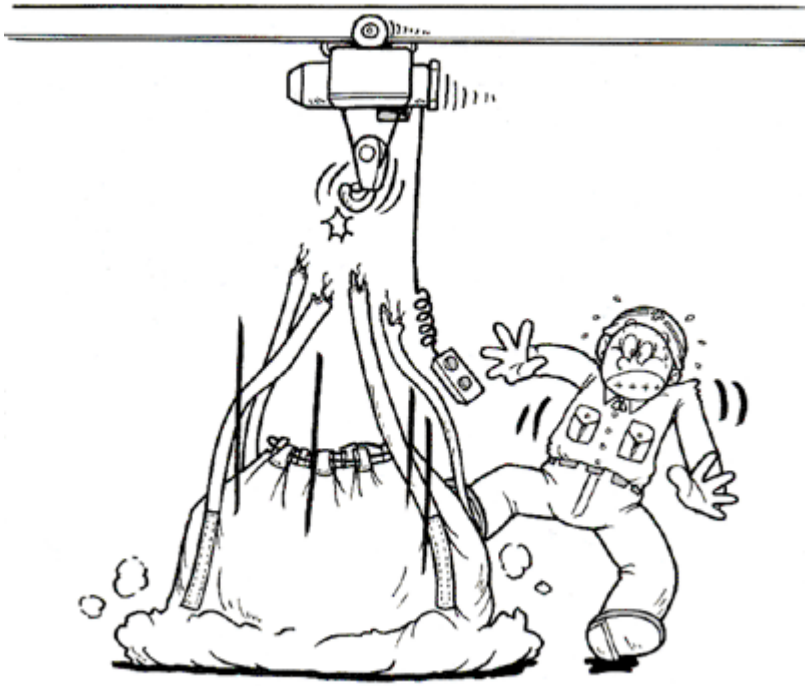
飛来・落下⑤

- 工場の床材に使用されるH鋼に付けられた鉄板の一面を塗装し、その後、裏面を塗装するため床上操作式3tクレーンを用いてH鋼を裏返そうとしたときに、鉄板がシャックルから外れた。



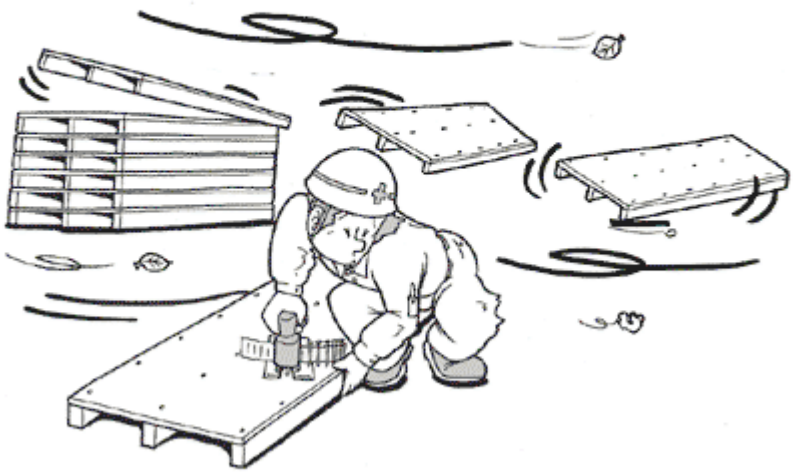
飛来・落下⑥

- 原料の受入設備で、フレコンバッグ入りの原料をホッパーへ投入するためテルハでフレコンバッグを吊り上げていたときに、フレコンバッグの繊維ベルトが切断したためフレコンバッグが落下した。



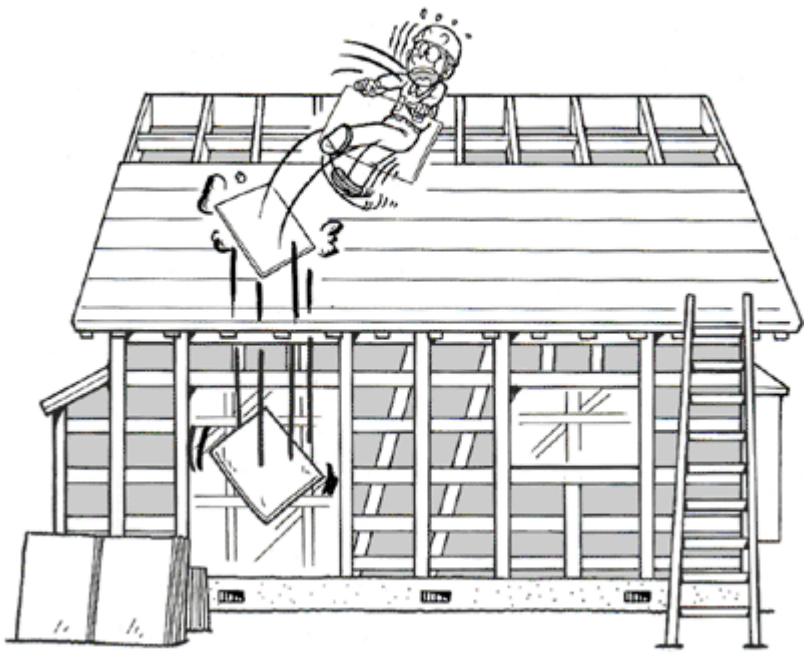
飛来・落下⑦

- 資材置場で型枠の製作を行っていたところ、製作済みの型枠が突風にあおられて約15m移動した。



飛来・落下⑧

- 木造平屋建新築工事において、屋根の野地板に使用するパネル一枚を運搬しているときに、足をすべらして手を離したパネルが屋根上をすべって地上に落下しヒヤッとした。



飛来・落下⑨

- 午前11時頃，公園内のベンチの基礎コンクリート部分を20番のブレーカーではつり作業中、アベックが気になり誤ってブレーカーを落とし、危うく足にぶつけそうになった。

飛来・落下⑩

- 午前11時30分頃、鉄パイプをクレーンで吊り上げて運搬中、玉掛けワイヤロープ(1本掛け)から抜け落ちて床面で跳ね返り、身体に当たりそうになった。

飛来・落下⑪

- 午後1時30分頃、鋼材をトラックに2人で積み込む作業中、一方の作業者が鋼材から手を離したため、鋼材が落下し、他方の作業者の足に当たりそうになった。

崩壊・倒壊①

- 地下鉄敷設工事現場において、土止壁に付着した土石をスコップにより手作業で除去していたところ、既設の下水道構造物の下部に付着していた土塊が落下し、ヘルメットに当った。

崩壊・倒壊②

- 農業用導水管埋設工事現場で、溝の中で床ならし作業中、地山が崩壊したので、慌てて逃げた。

崩壊・倒壊③

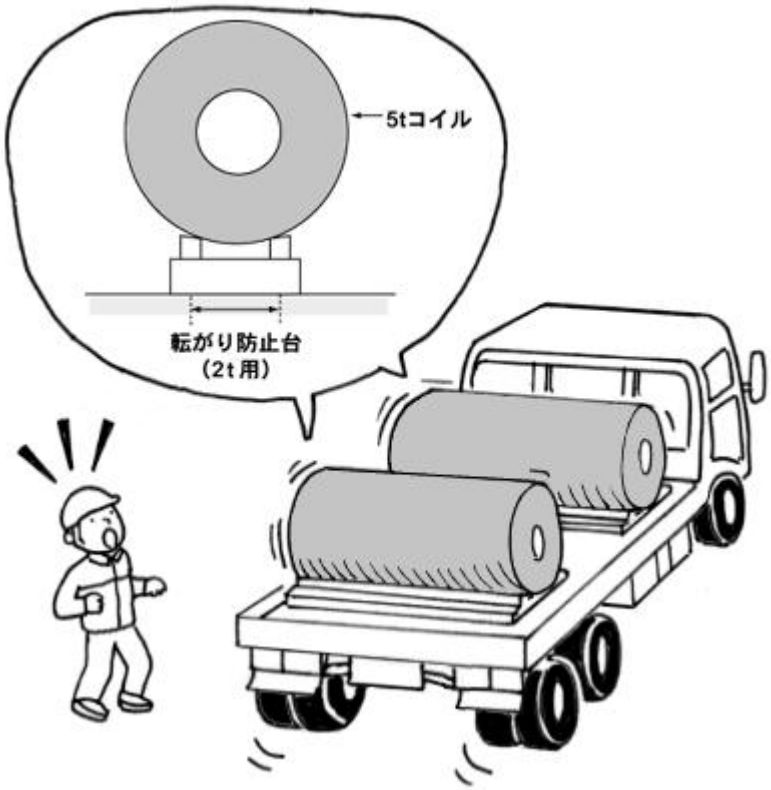
- 午後10時30分頃、路上開口部からクレーン車でH型鋼材を引き上げ、作業帯内の路上に仮置き作業中、上段1列目の鋼材が崩れ、そばにいた合図誘導作業者の足に当たりそうになった。

崩壊・倒壊④

- 午後2時30分頃、貯木場において木材の整理作業中、後に立て掛けてあった木材が突然倒れてきて身体に当たりそうになった。

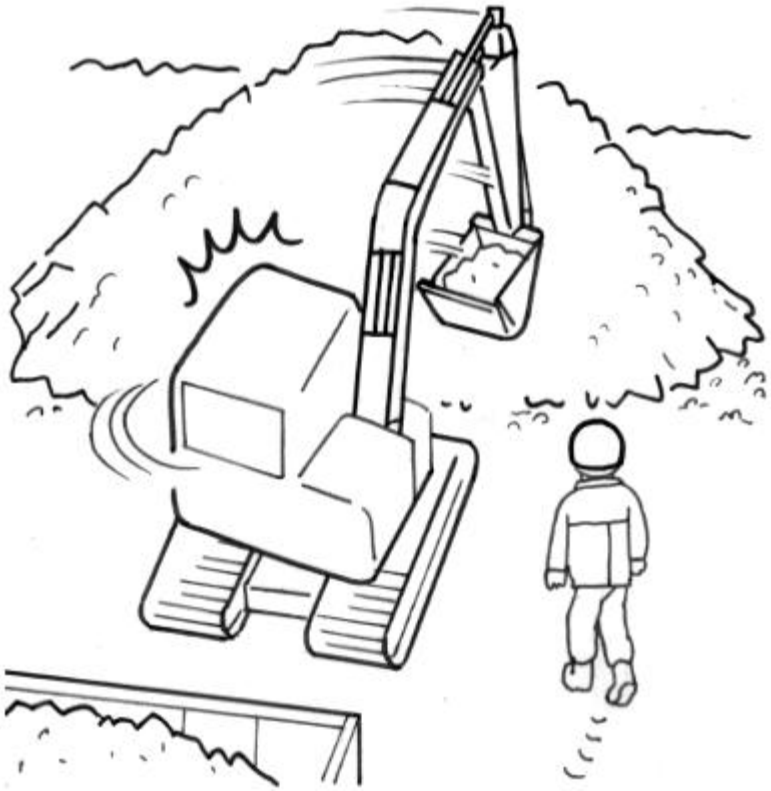
激突され①

- 鋼板コイルを搬送するトラックに、転がり防止台を設置して、製品工場まで運送する作業で、トラックの荷台の2t用小型転がり防止台に、5tのコイルを積んで動きはじめたとき、コイルが転がり防止台から転落しそうになった。



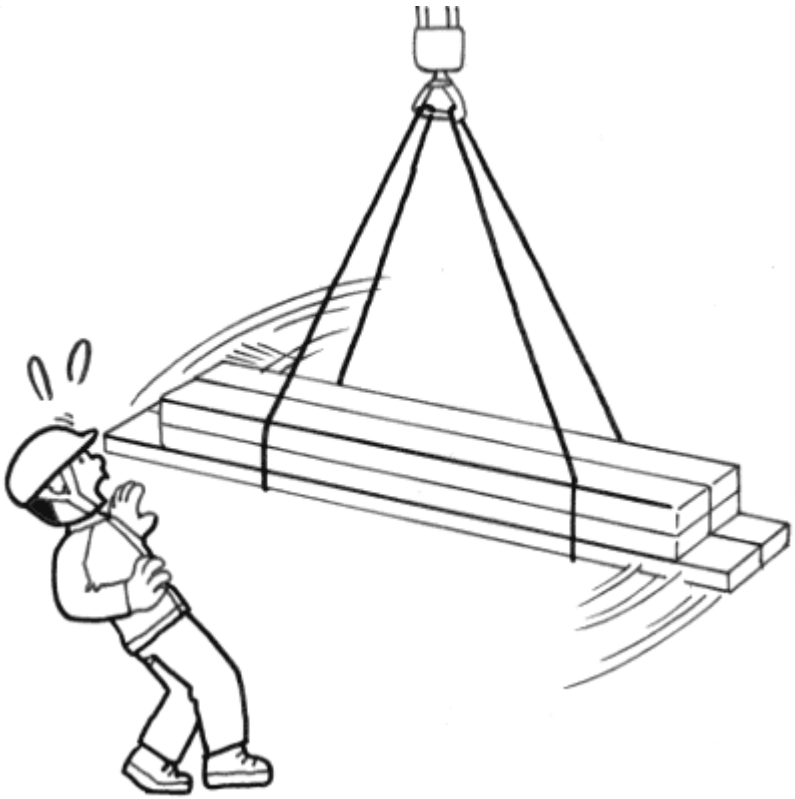
激突され②

- 国道改修工事において、残土をドラグ・ショベルでダンプトラックに積み込む作業中、「誰もいないハズ！」と勝手に判断して右旋回したところ、ダンプトラックの横から作業員が出てきてバケットが作業員に接触しそうになった。



激突され③

- 木造家屋建築工事において、トラックに積んだ木造建築用の資材を、クレーンを使い地上の資材置き場に下ろす作業中、つり荷が揺れながら旋回したため、玉掛け作業者に激突しそうになった。



激突され④

- 道路のU字溝設置作業をドラグ・ショベルを使用し作業中、「安全ロックレバー」が突然外れたため、あわてて誤操作し、右旋回状態になって、バケットが作業員に激突しそうになった。

激突され⑤

- 破砕したペレット状のプラスチック廃材を入れて、構内で野天に置いてあったフレコンバッグ（約82kg）を搬出のためトラッククレーンで約2mつり上げて ブームを回したとき、荷が大きく揺れて、地切りをした作業者の頭部に当たり、作業者は荷とトラックのアオリ板との間に挟まれた。

激突され⑥

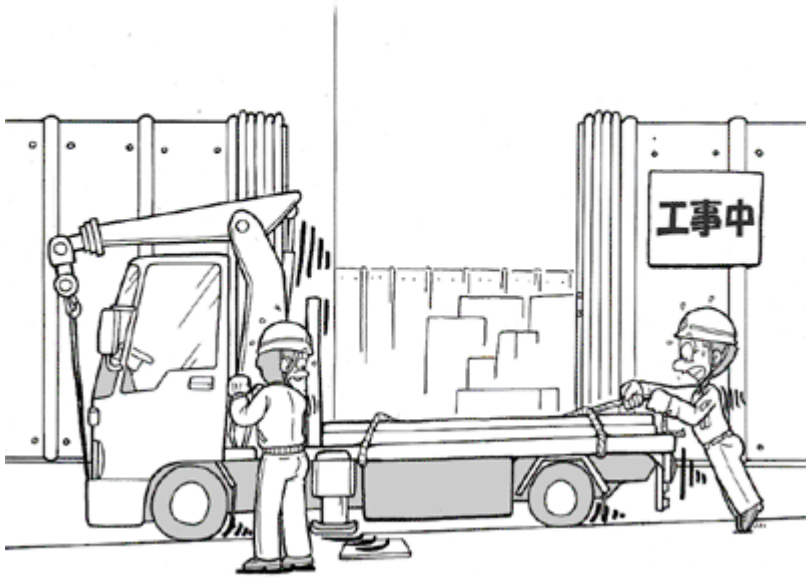
- 増築中の倉庫（2階建）の進捗状況確認のため、2階部分の外回り歩み板（幅40cm）上を歩いているとき、窓の内側から木材角柱（9cm角）が突然飛び出して、左肩の背面を強打し、歩み板を踏み外すところであった。安全ネットは設置されており、安全帯も持っていたが固定はしていなかった。

激突され⑦

- 河川護岸工事において，直前に設置した根固ブロックの向きを変えるためドラグ・ショベルで吊り上げたところ、他の既設ブロックに当たり、吊っていたブロックが旋回して激突されそうになりヒヤッとした。

激突され⑧

- 現場内に敷いてある鉄板を積載形トラッククレーン（2.7t）で片付けるため、クレーンを勾配約10度の坂道に止めて、重さ1．6t×2枚の鉄板を荷台に乗せ、アウトリガーのジャッキを縮めたところトラッククレーンが坂道を下りはじめた。



激突され⑨

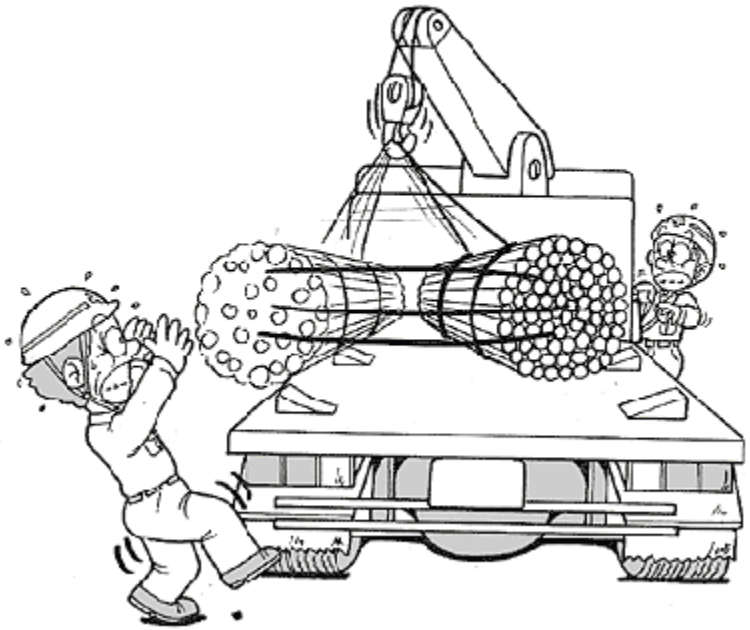
- 土砂と鉄屑が入っている鉄箱をバックホーで吊り上げ隣のピットに移動中、立って操作していたオペレーターが座ったときに服がレバーにひっかかってアームが突然回転しハットした。

激突され⑩

- 道路工事現場において、歩道部分に敷く砂利を積載した2tのダンプトラックが歩道上をバックしていたときに、誘導者が転倒したので、慌ててダンプを止めた。

激突され⑪

- トラッククレーンに荷積作業中、2本吊りしたパイプサポートの束がバランスを崩して、大きく振れた。

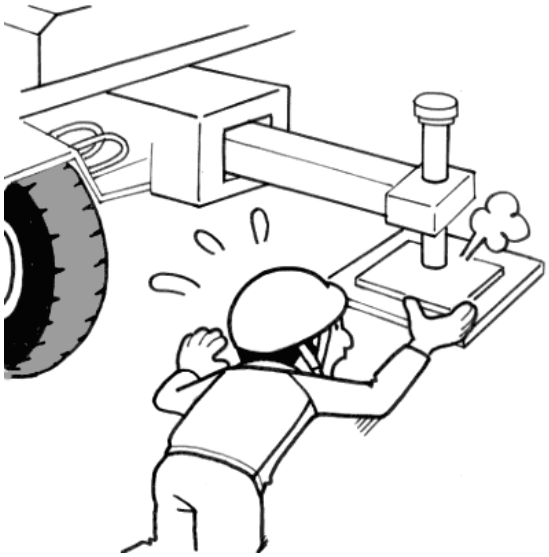


挟まれ・巻き込まれ①

- 工場構内で不要材を小型チェーンソーで引き割を担当。炎天下で汗を拭くため首に巻いていたタオルがたれ下がりチェーンソーに巻き込まれそうになった。

挟まれ・巻き込まれ②

- 鉄骨を移動式クレーンで吊り上げるため、クレーン車の位置決めを行なったとき、アウトリガー受け用補強鋼板を、アウトリガーのフロート位置に仮置きし、フ ロートを下げていたところ、補強鋼板が少し（約3センチ）ずれていたので、手で直そうと思い右手で押したと同時にアウトリガーが下がってきて、補強鋼板と フロートとの間に指を挟まれそうになった。

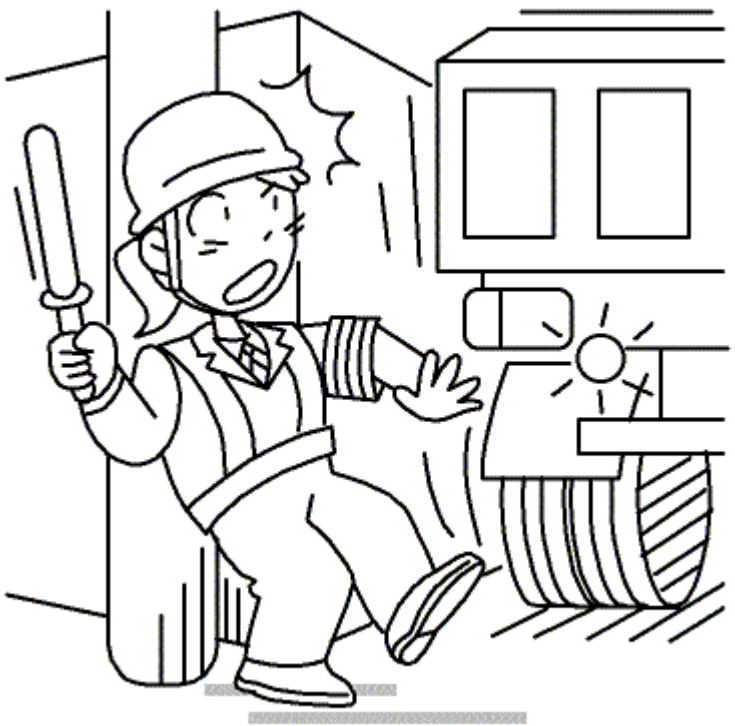


挟まれ・巻き込まれ③

- 午後4時30分頃、バックホーの誘導作業で、バックホーが方向転換するとき、通行者が来たのでバックホーを背に通行人の誘導をしたところ、後進したバックホーのキャタビラに足がひかれそうになった。

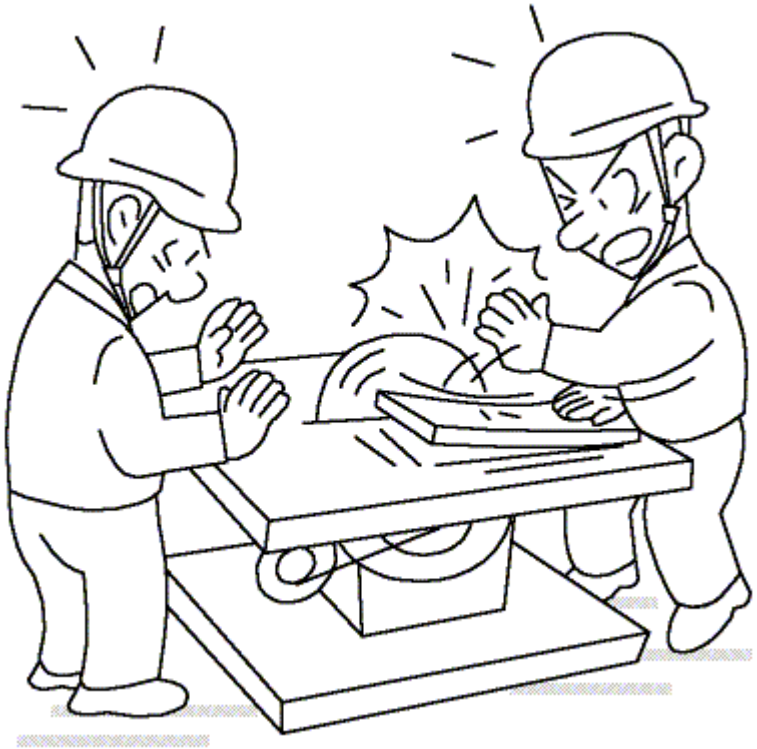
挟まれ・巻き込まれ④

- 午後12時頃、十字路での道路工事で、トラックの誘導を電信柱とトラックの間で行っていたため危うくはさまれそうになった。



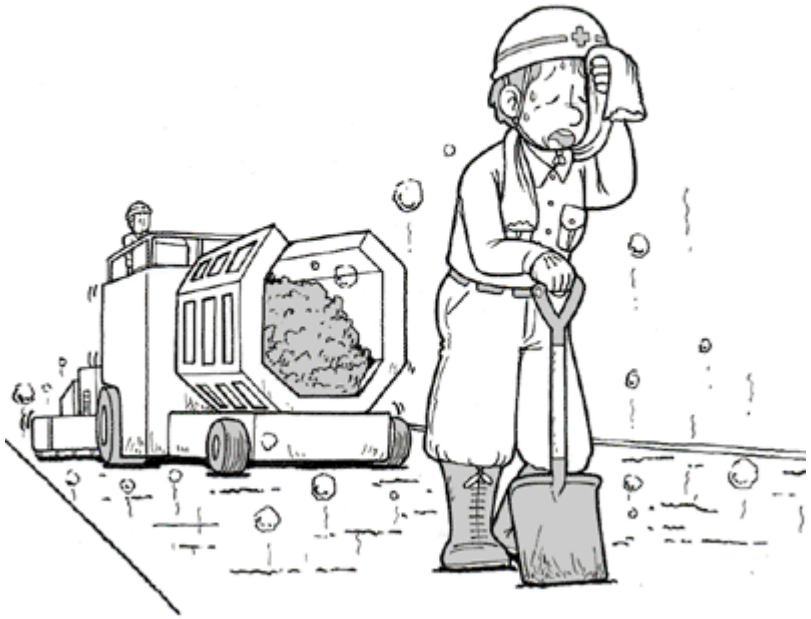
切れ･こすれ①

- 午前9時30分頃、電動鋸を使用して木材板を切断中、突然切断中の板が上下にあおり出したので、瞬間的に板を押さえようとして誤って電動鋸に左手の小指が接触したが、幸い円盤の側面に触れただけで大事に至らなかった。



高温・低温の物との接触①

- 舗装工事において、アスファルトフィニッシャの脇でスコップマンとして作業をしていたところ、暑さで気分が悪くなった

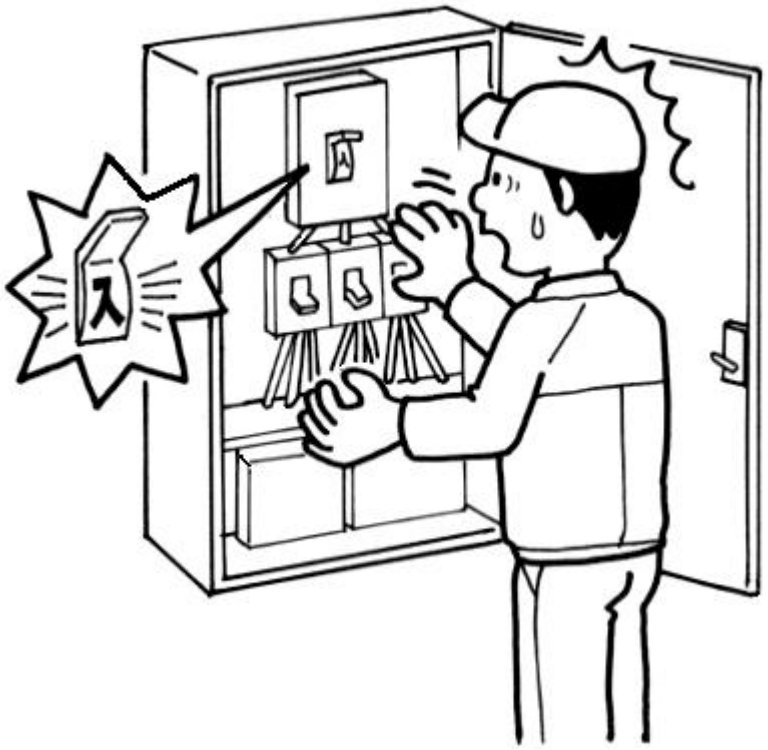


高温･低温の物との接触②

- 午後4時頃、建築工事で使用していたユンボの発動機がオーバーヒートしたためラジュエターの補助タンクに水を入れた。その後ラジュエターが冷めたと思い補助タンクの蓋を開けたところ蒸気が噴出し危うく顔を火傷しそうになった。

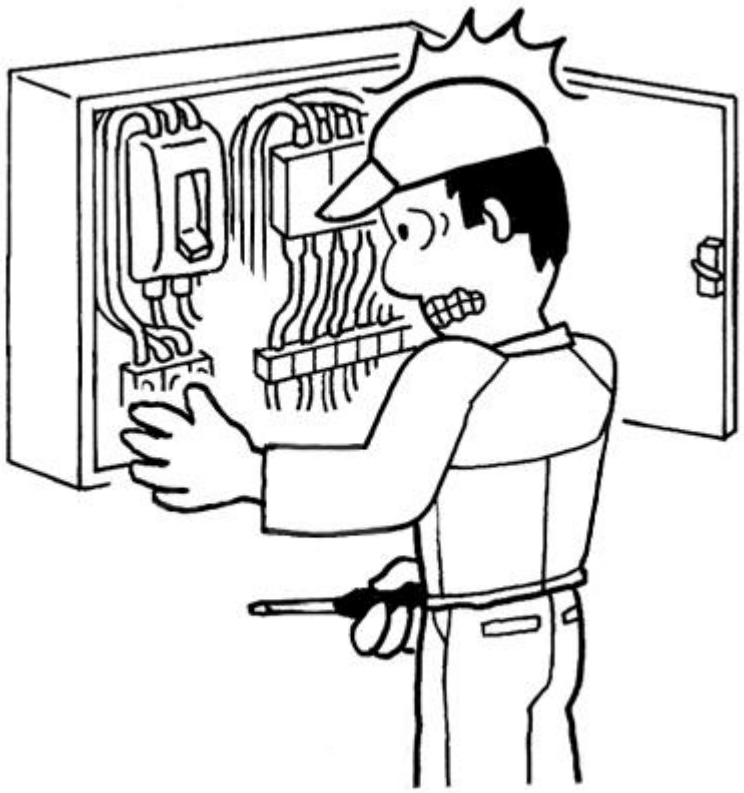
感電・火災①

- 工事用分電盤内の二次側スイッチに配線を接続しようとしたとき、二次側の配線が接続されていないにもかかわらず、一次側のブレーカーが「入り」になっていた。
　気がつかずに二次側ケーブルを接続すると感電する危険がありハットした。



感電・火災②

- 配電盤の配線変え作業のために、盤内の主電源ブレーカーを切って作業中に、ビスが落下したので取り出そうとしたら、主電源スイッチの1次側に腕が触れそうになってヒヤッとした。 配電盤の作業では電気室の元電源を切ってから作業するようにした。



感電・火災③

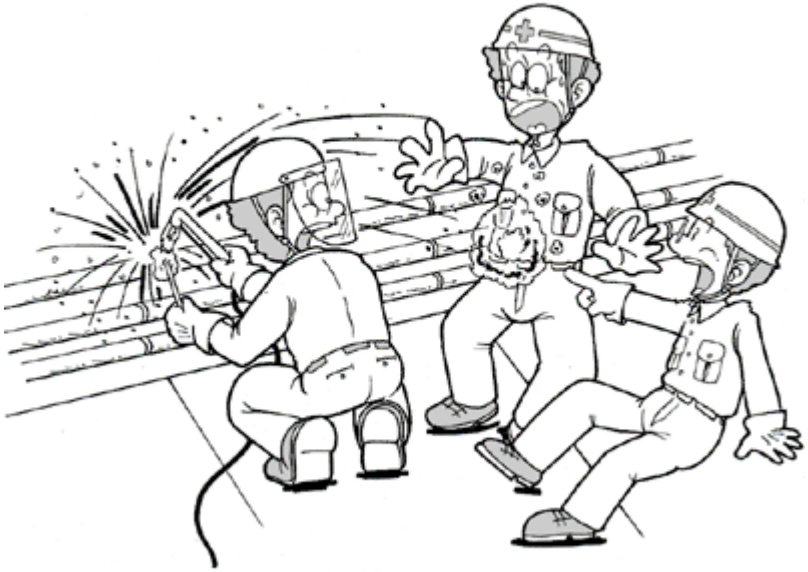
- 廃油貯蔵タンク内に溜まった固形分を掃除するために、鉄製のスコップでさらっていたところ、タンク内壁とスコップの間に衝撃火花が出たのに気がついた。あわてて衝撃火花が出ない材質のスコップに直ちに切り替えた。

感電・火災④

- 溶接で使用してほとんど空になったアセチレンボンベを、詰め替え業者が回収に来るまでの間、一時的に構内屋外通路横に立ててておいた。不安定な置き方だった ためボンベがひとりでに転倒し、たまたまこの通路を走行してきたフォークリフトの爪がボンベのバルブに衝突、バルブが破損し残っていたアセチレンが漏洩し た。

感電・火災⑤

- ピット内で古くなった工業用水管の撤去作業を行っていたところ、誤って酸素管を溶断してしまったので酸素の供給を停止して作業員3名が溶断部の溶接をしようとしたところ、作業員の作業服が酸素を吸収し燃えやすい状態になっていたため、アーク溶接の火花が作業員の作業服に引火し慌てて消した。

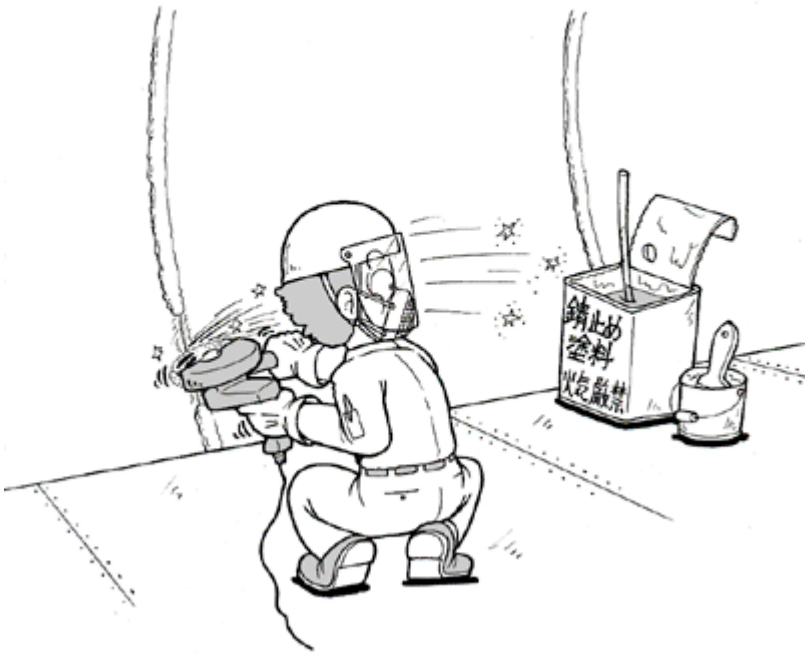


感電・火災⑥

- 危険物を取り扱う工場で、屋内を禁煙とし工場建屋間の幅約2mの通路（ここは風通しがよい）に椅子、灰皿を置き喫煙スペースとした。吸殻を午後4時ごろペール缶（金属製、蓋はなし）に回収して通路に置いておいたところ、ひとりでに発火し大半の吸殻が灰になっていた。

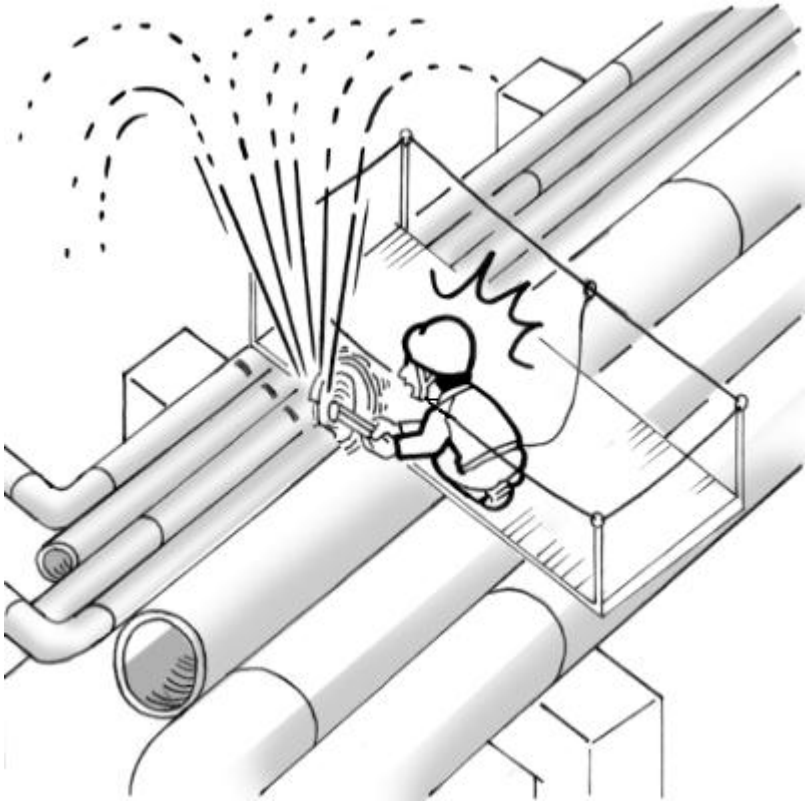
感電・火災⑦

- 船体ブロック内において、溶接箇所の補修作業を行っていたところ、付近に置いていた錆止め用の塗料が入っていた缶に、グラインダーの火花が飛び込んだ。



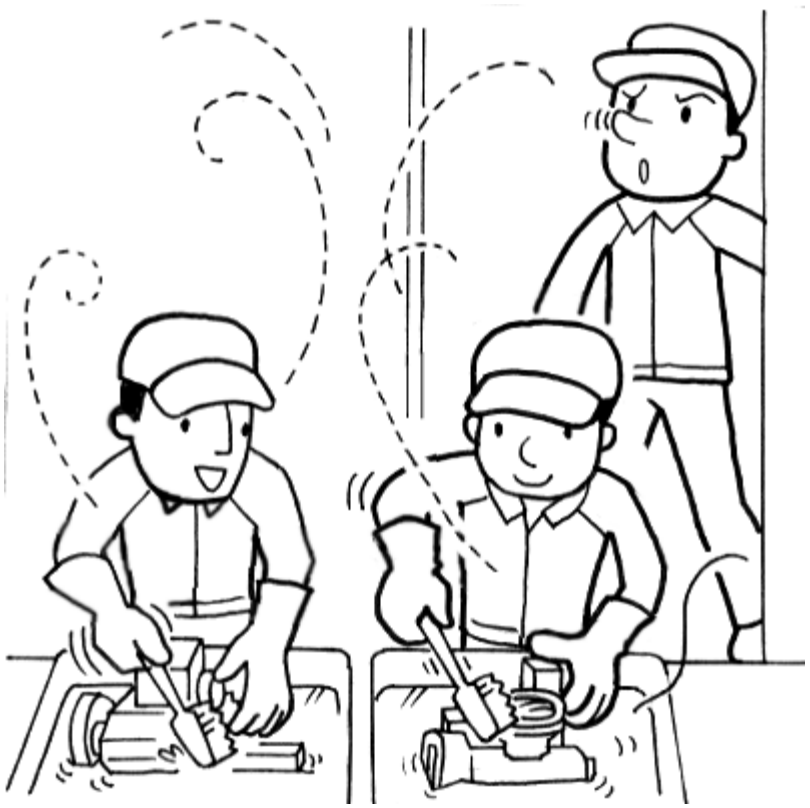
有害物との接触①

- 運転中の石油精製装置の配管撤去工事の下準備を行なっていたとき、撤去すべき配管をマーキングしていたのにも係わらず、誤って 近くにあった同サイズの撤去対象外のボイラー用水配管をパイプカッターで切断したため、配管内からボイラー用水（冷水）が噴出した。



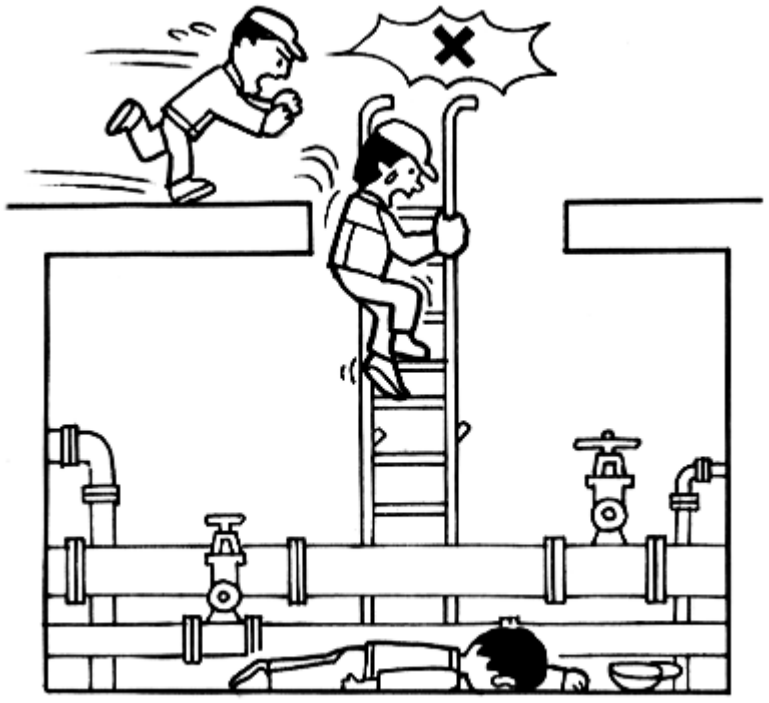
有害物との接触②

- メッキ工場で自動部品供給装置の調子が悪いので、作業員2人で装置を分解し、有害成分を含む洗浄液を使って洗浄していた。 たまたま戸外から入ってきた従業員から匂いがきついぞと注意されて、急いで窓を開けて換気した。



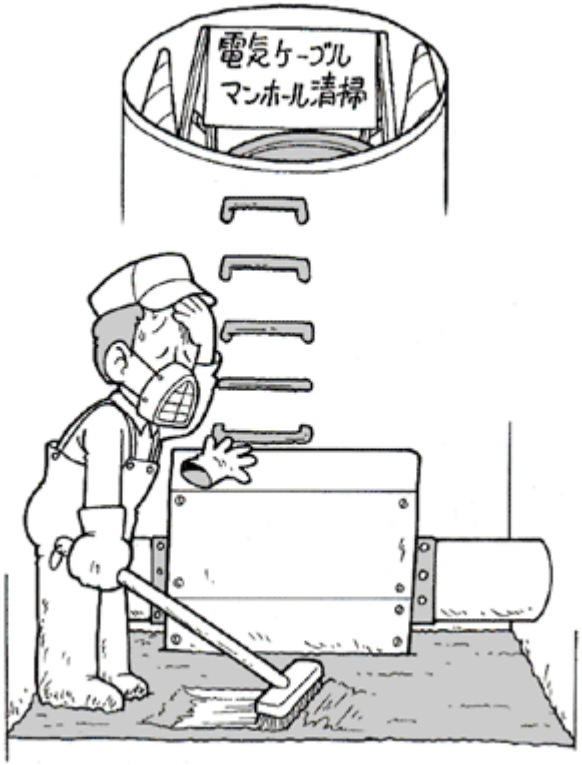
有害物との接触③

- 合成繊維製造工場で、廃液処理場のバルブ操作用地下ピットの中に作業者が倒れているのを発見した。直ちに救助のために中に入ろうとしたところを同僚に止められて二次災害を免れた。



有害物との接触④

- 電気ケーブル中継用の地下マンホール内に入り、底に滞留した泥等を排出する作業を行っていたところ、付近で作業していた別の業者のコンプレッサの排気が流れ込み、気分が悪くなった。



有害物との接触⑤

- 午後6時30分頃、プール機械室内の塩素タンクに塩素を補給している最中にあやまってこぼし塩素が目に入りそうになった。

有害物との接触⑥

- 午前10時頃、エタノールを用いてブラシ洗浄作業中に液体が飛散し眼に入りそうになった。

有害物との接触⑦

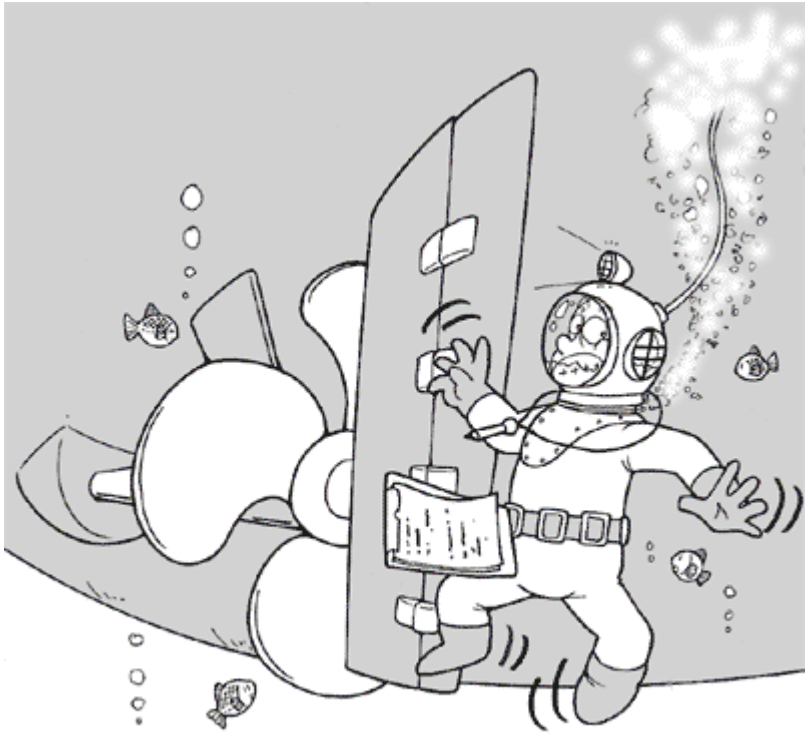
- 午前11時30分頃、作業場のコンクリート床をコンクリートカッターで切断作業中、カッターからでる排気ガスで作業場の空気が悪くなったため窓を全開し換気を行った。

その他①

- 定期整備の先行工事として、運転中の石油精製装置の足場組み立て作業を行なっていたとき、足場用の鋼管を運転中のポンプの操作パネル（スイッチ部分）に当てたため、給水ポンプを停止させてしまった。現場監視をしていた運転員がそれを見て、素早くポンプを再起動させたため事故や災害にはならなかった。

その他②

- 防波堤に接触して損傷したフェリーを水中で点検するため潜水作業を行っていたところ、潜水士のヘルメットが外れてヒヤッとした。



５．おわりに

- 今までは、社内で起きた災害事例を社内のネットワークを使って限られた現場で見える化を行ってきたが、今後は、いろいろなヒヤリハットを出してもらい、また開示することによって「ヒヤリハットの見える化」を行いたい。
- 現場から、文字を書くのは苦手だが「こういうことがあった」と口頭でも報告してくれる人も出てきている。徐々に現場の安全に対する意識が高まり、それと同時に現場も整理整頓されてきたようである。

- 今回、新たにヒヤリハットを出してもらい、それを開示する。更に、これらを使って現場でコミュニケーションを図り、新たなヒヤリハットを出してもらう。そうすることによって、現場で起きたヒヤリハットを多くの現場で認識し、同じようなヒヤリハットが発生しないような対策を行う。出します・見せます「ヒヤリハット事例」が多くの現場の見える化となり、すべての現場で事故・災害が起こらないようになれば幸いである。

以上